

赤米ニュース

第263号

(2019年2月28日)



東京赤米研究会

〒186-0005 東京都国立市西3-7-29 アゼリア国立2-101 長沢方(Tel042-577-6855)

おしらせ	-----	2102
おたより	-----	2102
稲の収穫祭と神社信仰 (IV)	-----	長沢利明 2103
『赤米ニュース』第101号～第120号総目次	-----	2105
表紙解説：ニッポン寿司列島②—節分の恵方巻き (大阪府)	-----	2108

おしらせ

●「環境ひろば」で紹介されました

東京都国分寺市まちづくり部まちづくり計画課で運営している「国分寺市環境ひろば」(〒185-8501 東京都国分寺市戸倉 1-6-1・Tel 042-328-2192)が、武蔵国分寺種赤米のことを取り上げて下さいました。『環境ひろば国分寺』の第132号(2018年10月21日発行)に、その記事が載っております(下図参照)。記事を書いて下さったのは、当会会員で赤米セミナーレのメンバーでもある龍神瑞穂さん

です。ありがとうございました。

●前号(262号)の訂正

2095 頁左 15 行 12 月 24 日⇒11 月 24 日

2095 頁右 13 行 頓汁⇒豚汁

おたより

●今年も『赤米ニュース』を(渡戸道子)

毎月『赤米ニュース』、ご送付頂きありがとうございます。毎号を頼りにバケツで 5/5 に種まき、5/13 に発芽。その後もグングンと



育ち、8/3 には急に赤い芒が出現して、お花も観察できました。台風時にはバケツを屋内に避難させて、無事収穫に至りました（実の入らない穂もありました）。11/25 には「国分寺カルティベイト」の注連縄作りのイベントにも参加いたしました。思い掛けず楽しい数ヶ月となりました。来年も、継続発送をお願いいたしたく、ご連絡いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます（12/1：東京都国分寺市）。

●今年もよろしく（多久島 實）

平成 30 年中はお世話になりました。来年もよろしく『赤米ニュース』の送付をお願い致します。赤米は来年の「タネ」分とりしました。5 月より 12 月初旬まで入院しておりましたので、お便りも失礼致しました（12/21：大阪府大阪市）。

●今年もどうぞよろしく（米村 創）

昨年は大変お世話になりました。今年もどうぞよろしくお願い致します（1/1：埼玉県所沢市）。

●おめでとうございます（坂 真矢子）

あけましておめでとうございます。今年も『赤米ニュース』を宜しくお願い致します（1/1：愛知県名古屋市）。

●昨年は失敗でした（佐藤照美）

明けましておめでとうございます。昨年は、夏の水の管理に失敗して、お米ができませんでした。夏休みがネックになりました。種粃をせっかく頂いたのに、申し訳ありませんでした（1/3：神奈川県横須賀市）。

●外国産の赤米（山田義高）

謹賀新年。赤米「ブータン A・B」、お送りします。フィリピンは、今年ダメでした。（1/4：東京都武蔵村山市）。

稲の収穫祭と神社信仰(Ⅳ)

長沢 利明

2 江戸時代の恋ヶ窪・つづき

図中中央に描かれた谷間地帯には水田が広がっておりますが、そこを横切って南北に延びている田中の道が鎌倉街道です。相州鎌倉から北関東方面へと抜けていく、当時の主要幹線道路が鎌倉街道でした。中央やや左手に寺院があり、「東高寺」と記されておりますが、これは東福寺の誤りでしょう。東福寺は、今も恋ヶ窪にあります（写真3）。図中右端の鳥居が描かれている所に小さな神社の社殿が見え、「熊野」と記されていますが、これが現在の熊野神社です。そのすぐ左手に「庵」とあって、お堂が見えますが、これが閻魔堂（十王堂）で、閻魔大王が祀られていました。第二次大戦中に米軍機による空襲を受けて焼失してしまい、堂は現存しませんが、その跡地は現在、墓地になっており、「閻魔堂霊園」と呼ばれております（写真4）。



写真2 熊野神社



写真3 東福寺



写真4 閻魔堂霊園



写真5 阿弥陀堂墓地

この挿絵の表題には「恋ヶ窪・阿弥陀堂・傾城松・牛頭天王」と書かれていますが、かつての恋ヶ窪にはそのように、いろいろな神仏を祀るいくつかの堂宇があったのです。いずれも現存しませんが、ここにいう阿弥陀堂は図中左下に描かれており、現在ここには「阿

弥陀堂墓地」があります(写真5)。傾城松は図中右上に「八幡社・傾城松」と小さく記されています。ここにいう八幡社は今では、熊野神社の境内に移されていますし、傾城の松も、その後に枯死してしまい、今は見られないのが残念なところです。

この傾城松については、恋ヶ窪という地名の起源となったという有名な遊女伝説が語られてきたのですが、皆さんもお聞きになったことがあるでしょう。傾城というのは遊女のことをいい、大昔の恋ヶ窪は鎌倉街道の宿場で、遊女もいたほどにぎわっていたということです。その遊女の一人に、夙妻太夫(あさづまだゆう)という絶世の美女がいて、武蔵国秩父の勇猛な武将であった畠山重忠の寵愛を受けていたのですが、非業の死を遂げることとなったといわれています。その伝説のあらましを、1912年(大正元年)に編さんされた『北多摩郡誌』から引用してみることにしましょう。

恋ヶ窪は、北多摩郡国分寺村の大字にして、古は東北より鎌倉へ通する北国街道の駅舎路にして遊女の家居などありて、いと繁華なりしと、伝へ云ふ。秩父次郎重忠の寵愛を受けし遊女あり、重忠義経に随伴して、平家追討に赴きし際、重忠は西国にて戦死



写真6 姿見の池

せしと偽り告しものありしかは、遊女は悲の餘り、終に自害せり。土人其死を憐み、阿弥陀坂より、約一丁半、北方の小塚に、之を葬り、其上に印の松を植へしを、相伝へて、傾城の松と云う[東京府北多摩郡役所(編), 1912:p. 55]。

恋人の畠山重忠が戦死してしまったという偽りの知らせを聞き、絶望した夙妻太夫が身を投げて果てた所が、JR中央線西国分寺駅北口にある「姿見の池」で(写真6)、その亡骸を葬った場所が、熊野神社北方の小塚、そこに植えられた松が傾城の松であったといわれているのです。もっとも、この伝説にもいろいろな異伝があり、彼女を葬った地は別の所だとする説も聞かれるのですが、いずれにしても畠山重忠と夙妻太夫とのラブ・ロマンスにもとづいて、恋ヶ窪という地名が生れたと、伝えられてきたのです。

さて、この事件から約 300 年を経た 1486 年(文明 18 年)、この地をおとずれた都人がおりました。聖護院道興准后(しょうごいんみちおきじゅごう)という人物で、皇族でもあり門跡寺院の僧侶でもあって、すぐれた歌人でもあった人です。1467 年(応仁元年)の応仁の乱で荒廃した都を捨て、諸国を旅していた人だったのですが、乱によってパトロンを失い、都落ちをして地方の有力者のもとに身を寄せたり、東国の地をめざしてあてのない旅に出る都の文化人や芸術家が、この時代にはいろいろいたのです。道興准后もそうした一人で、はるばる東国の各地をたずね歩いていたのですが、鎌倉街道を北上して、武蔵国国分寺の恋ヶ窪にもやってきました。恋ヶ窪という、あまりにロマンチックな地名に出会い、彼は次の歌をここで詠みました。

朽ち果てぬ名のみ残りて恋ヶ窪
今はたとふもちぎりならずや

彼の旅日記である『廻国雑記』に記されたこの歌は、先の『江戸名所図会』の挿絵にも、引用されておりました。熊野神社の境内には、この歌を刻んだ歌碑が建てられています、1874 年(明治 7 年)に有栖川宮幟親王(あすかのみやのうしろ)の真筆を下賜され、歌の詠まれたこの地にその碑が建立されたものなのです(写真7)。

道興准后は、一体どんな気持でこの歌を詠んだのでしょうか。「恋ヶ窪」という何ともロマンチックな地名を耳にした彼は、おおいに心を動かされ、その地名にちなんだ歌を詠もうと思ったのでしょうか。土地の人々に当然、地名のいわれをたずねたに違いありません。けれども、どうしてそんな変わった地名ができたのか、いくらたずねてもわからなかったようです。長い時を経て、いつしかその由来も忘れ去られてしまったけれども、恋ヶ窪という地名は、今でもそこに残っている、今私がそこをおとずれたのも、何かの縁なのかも知れない、というのがその歌の意味なのです。

かなり想像をたくましくして、この歌の意味をさらに深読みしてみたならば、どうでしょう。畠山重忠と夙妻太夫との悲恋物語を、里人たちはもうみな忘れてしまっているのだけれども、地名だけは残っているではないかという意味で、この歌を解釈できるという人がいるかも知れません。(つづく)

『赤米ニュース』第 101 号～第 120 号総目次

第 101 号(2005 年 8 月 1 日)

8 月の赤米作り————— 798
おたより(宮本リツ子: 30 cmに伸びました、

長沢利明：武蔵国分寺種は強い！，多久島 實：百号おめでとうございます）——	799
『赤米ニュース』100号記念報告：赤米の基 礎知識雑話（Ⅱ）——長沢利明	801
表紙解説——	804

第102号(2005年9月1日)

9月の赤米作り——	806
おたより（宮本リツ子：30cmに伸びました， 長沢利明：雑草のカヤツリグサ，瀬川洋 子：資料館がリニューアル）——	808
『赤米ニュース』100号記念報告：赤米の基 礎知識雑話（Ⅲ）——長沢利明	810
表紙解説——	812

第103号(2005年10月1日)

10月の赤米作り——	814
おたより（長沢利明：台風での引越し，宮 本リツ子：赤米は順調です，原中美由紀： 来年は私も挑戦，佐山真由美：赤米を希望 致します，手島忍：赤米を譲って下さい， 中野恵美：赤米を育ててみたいです，栗原 健一：赤米は大切に育てます）——	816
『赤米ニュース』100号記念報告：赤米の基 礎知識雑話（Ⅳ）——長沢利明	817
表紙解説——	820

第104号(2005年11月1日)

おしらせ（栽培成績をお知らせ下さい，会員 再登録の更新のおしらせ）——	822
おたより（瀬川洋子：赤米は水不足，鈴木誠： ミニ水田の赤米はまもなく出穂，榎本直 樹：「まかずの稲」を見てきました，山田 義高：「国分寺」・「ブータンB」出穂，井 田安雄：「藤原の赤米」その後，宮本リッ 子：9月11日に収穫）——	822
『赤米ニュース』100号記念報告：赤米の基 礎知識雑話（Ⅴ）——長沢利明	824
赤米雑話77（67千葉県我孫子市の赤米作り） ——長沢利明	826

表紙解説——	828
--------	-----

第105号(2005年12月1日)

おしらせ（会員再登録のおしらせ）——	830
おたより（田邊洋子：9月18日に収穫しまし た，長沢利明：人間の背丈を越えた赤米， 鈴木誠：見事に収穫終了，宮岡真央子：私 もやってみたいのですが…，石本敏也：「赤 米雑話」を単行本に，瀬川洋子：今年も刈 り入れ終了，佐藤守利：来年もよろしく， 多久島實：今年の材倍実績）——	830
赤米雑話78（68埼玉県の赤米） ——長沢利明	833
表紙解説——	836

第106号(2006年1月1日)

おしらせ（本年もよろしくお願い申し上げま す）——	838
おたより（鈴木誠：種粃お送りします，宮本 リツ子：来年も栽培します，坂真矢子：来 年もよろしく！，多久島實：原爆稲の栽培 方法，山田義高：全体的に豊作でした，多 久島實：原爆稲の栽培方法，多久島實：原 爆稲の品種名）——	838
赤米雑話79——長沢利明	840
表紙解説——	844

第107号(2006年2月1日)

おしらせ（新しい仲間たち）——	846
おたより（熊谷仁美：北海道でも赤米は育つ？， 山口蓉子：来年は母と一緒に，小澤弘昌： 静岡でもやっています，長沢利明：くにた ちの赤米畑，鈴木博子：南国高知でも大雪， 多久島實：本年もよろしく，瀬川洋子：試 食会を楽しみに，寺田智子：昨年は失敗， 熊谷仁美：あめでございます，宮本リッ 子：今年もよろしく，山田義高：今年も 『赤米ニュース』を，坂真矢子：本年もよ ろしく）——	846
赤米雑話80 長沢利明——	849

表紙解説 ————— 852

第108号(2006年3月1日)

おしらせ(第14回試食会の報告) ——— 854

おたより(浜口景子:今年もよろしく、多久島實:今年も60数種を栽培予定、坂真矢子:大利根町の古代米、長沢利明:「チンコ坊主」という稲) ————— 854

新春座談会:赤米香る新春の七草粥

———川添裕稀・瀬川洋子・長沢利明 854

表紙解説 ————— 860

第109号(2006年4月1日)

4月の赤米作り ————— 862

おしらせ(法政大学の学生の皆さんへ) — 864

おたより(瀬川洋子:今年はブータンの赤米を、川添裕稀:今年は私も頑張ります、高橋晶子:昨年は成功、森本嘉訓:今後、ミニ水田で、長沢利明:大学で赤米を作れたら) ————— 865

赤米雑話81 ————— 長沢利明 866

表紙解説 ————— 868

第110号(2006年5月1日)

5月の赤米作り ————— 870

おしらせ(種籾の配布、まだ間に合います) ————— 872

おたより(宮本リツ子:いよいよ今年も、垣田千恵子:今年は私もやります、工藤沙貴子:昨年は大成功、飯島知子:今年は3年目、長沢利明:今年はバケツで) ——— 873

赤米雑話82 ————— 長沢利明 875

表紙解説 ————— 876

第111号(2006年6月1日)

6月の赤米作り ————— 878

おしらせ(途中経過をぜひ本誌へ) ——— 879

おたより(浜口景子:5年生が赤米栽培、長沢利明:法大の赤米仲間はいずこ?、浜口景子:今年も頑張ります、川村文子:よろしく願います、横山明子:種をまきま

した、山田義高:5月3日に種まき) — 879

赤米雑話83(68赤米新品種のベニロマン)

—————長沢利明 882

表紙解説 ————— 884

第112号(2006年7月1日)

7月の赤米作り ————— 886

おたより(垣田千恵子:風で倒されました、浜口景子:児童からの質問が出ました、東久留米市立第二小学校5年3組石橋・田中:長沢利明先生へ、長沢利明:わが家の庭に原爆?) ————— 887

赤米雑話84(69千葉県の赤米) —長沢利明 889

表紙解説 ————— 892

第113号(2006年8月1日)

8月の赤米作り ————— 894

おたより(中野恵美:苗が密集し過ぎ?、岩淵令治:食堂のご飯はいつも赤米、瀬川洋子:枯れてしまいました、長沢利明:千歯扱きが欲しい) ————— 895

赤米雑話85 ————— 長沢利明 897

表紙解説 ————— 900

第114号(2006年9月1日)

9月の赤米作り ————— 901

おたより(多久島實:ピカドン稲も順調、宮本リツ子:肥料はどうすれば…、長沢利明:プラントオパールで手を切る) ——— 904

赤米雑話86 ————— 長沢利明 906

表紙解説 ————— 908

第115号(2006年10月1日)

10月の赤米作り ————— 909

おたより(中野恵美:残念ながら病気に…、鈴木誠:8品種が順調に生育、垣田千恵子:稔るでしょうか?、長沢利明:朝顔につるべ取られて…) ————— 912

赤米雑話87 ————— 長沢利明 914

表紙解説 ————— 916

第116号(2006年11月1日)

おしらせ (今年の報告をお寄せ下さい、会員登録の更新のおしらせ) ————— 918

おたより (芦田行雄: 写真が不鮮明、中野恵美: 何とか実をつけました、長沢利明: 赤米バケツに金魚?) ————— 918

赤米雑話 88 ————— 長沢利明 920

表紙解説 ————— 924

第117号(2006年12月1日)

おしらせ (会員登録をお早めに) ——— 926

おたより (宮本リツ子: 今年も無事に収穫、小澤祐美: 私も赤米を、長沢利明: 石包丁で稲刈り、辻直樹: 国士舘大学の学生です、平井静香: 上手に育ちませんでした、佐藤守利: 2007年もうろしく、横山明子: やつと穂が…、中野恵美: 来年も再チャレンジ、岡本香絵: 来年は食べます、川村文子: 感激の連続!、浜口景子: 小学生と赤米栽培) ————— 926

赤米雑話 89 (70 赤米新品種の「紅衣」) ————— 長沢利明 930

表紙解説 ————— 932

第118号(2007年1月1日)

おしらせ (今年もどうぞよろしく) ——— 934

おたより (沖山友香: 試食をしました、鈴木誠: 8品種を収穫、長沢利明: 鈴木さん、ありがとう!、松原昌子: 来年は頑張ります、多久島實: 今年度の栽培報告) ——— 934

赤米雑話 90 ————— 長沢利明 939

表紙解説 ————— 940

第119号(2007年2月1日)

おしらせ (第15回試食会の報告) ——— 942

おたより (垣田千恵子: 赤米が稔りました、長沢利明: 赤米稲のシメ飾り、芦田行雄: お探しの稲があれば、飯島知子: 豊作でした、鈴木誠: 来年はベニロマンを) ——— 942

赤米雑話 91 ————— 長沢利明 944

第120号(2007年3月1日)

おしらせ (今年の種籾の配布について) — 950

おたより (瀬川洋子: 本年もうろしく、多久島實: 皆様のご多幸を、熊谷仁美: 今年も挑戦します、山田義高: 7種類とも無事収穫、浜口景子: 今年もうろしくお願ひします、寺田智子: 昨年は残念、佐山真由美: 昨年はありがとう、坂真矢子: 恭賀新年、長沢利明: 種子島種はおいしい、瀬川洋子: 今年こそ、宮本悠子: 私もお仲間に、中山リツ子: 毎年違う育ち方) ——— 951

新春座談会: 食べ比べてみよう、日本の赤米 (上) —川添裕稀・瀬川洋子・長沢利明 953

表紙解説 ————— 956

【表紙解説】ニッポン寿司列島②一節分の恵方巻き(大阪府)一

節分の日に恵方巻き寿司を食べることは、いまや全国的におこなわれるようになった。その年のめでたい方角(恵方)を向き、無言で丸かじりするという変わった食べ方のおもしろさが話題を呼び、日本中にそれが広まっていた。その発祥の地は大阪の船場地区で、節分の日に太巻き寿司を食べる習慣がもともとあったらしいが、寿司屋や海苔問屋が販路拡大を狙い、大々的にPRするようになった。大手コンビニ・チェーンの「セブンイレブン」がそれに目をつけ、1989年に売り出したため、一気に流行に火がつき、2004年には全国で250万本の売り上げを記録するまでになった。やがて他のコンビニ店もこれに追随するようになり、スーパーや持ち帰り寿司店でも売られるようになった。特徴としては、鮪・サーモンなどの刺身や厚焼き玉子・胡瓜・干瓢・椎茸などの具材をふんだんに用いて少量の酢飯と海苔で巻き、ハーフサイズの太巻きに作る。包丁で一口サイズに切り分けず、豪快に丸かぶりするというのが、食べ方の決まりである。